論説　年頭の辞

第57代会長　柳沢米吉*

新年おめでとうございます。会員各位はますますご繁栄で何よりと存じます。1970年・昭和45年は，日本にとっていろいろな意味において期待される年でありましょう。外交問題はもとよりでありますが，日本の産業の発展についても相当の進展が考えられ，国民総生産および国民所得の伸びも，かなりのものとなるでありましょう。また，科学技術の発達も年1年と急速になり，われわれの土木分野においても，過去の1年と比較したならば，2年分にもあたる進歩を必要とするようになるでありましょう。

しかし，この産業の発展と技術の進歩にともなって，いろいろな弊害がでてきています。公害の問題，交通の問題，住宅の問題，過密，過疎の問題，等がこれでしょう。われわれは，これらの問題をなんとか解決しなければならない立場にあると考えられます。これら諸問題の1つ1つが，重大なかつ解決に困難なテーマでありまして，しかもわれわれ土木技者の分野に属すると考えられる部分が相当大きいのであります。今年こそ腰をすえて解決に乗り出そうではありませんか。そして，調和のとれた人間社会をつくり出すために，これらの基盤をわれわれ土木技者がつくり出すべき時期がきていると考えられます。しかし，この仕事は非常に困難なことであり，われわれが一致団結して行なわねばなりません。

さて，われわれ土木術者は，これらの守備範囲が広く多様にわたり，従って，これらの専門が数多くあることは1つの特徴といえると思います。道路を1つの例にしても，トンネル，橋梁などにわかれ，これらの橋梁のなかにも上部と下部，鋼構造，コンクリート等にわかれています。専門は専門としてより深く研究せねばなりません。学問の進歩に従って，専門分野がなお細かくわかれて行くことでしょう。しかして，これらの細かくわかれた専門家が互いによく連繋して1つのプロジェクトをなしとげることになると思われます。われわれ土木学会の会員は，この相互の連繋をいかにスムースに密接にするか，ということが大切であるかを心に十分とめておくべきであろうと思います。

世間でいう「ジェネラリスト」を必要とするというのも，この専門学相互の連繋をいかに密接にするかの役割をはたす人々のことをいうに過ぎないと考えます。

かくして，われわれ土木技術者が細かい各自の専門を横に連繋を考え，一致して困難なプロジェクトに取り組んで行くべきでありましょう。

つぎに，われわれは日本の国内のことだけ考えているわけには参りません。

われわれは少なくともアジアにおける中心国・日本の技術者であることを自覚せねばなりません。ようやく開発途上国から脱しようとしている中華民国（台湾）や韓国においても，国民所得は，200ドルから250ドルというぐらいに記憶していますので，日本の年1000ドルに比較して1/4以下と思われます。ましてや，他の開発途上国の貧困さは想像されます。このような国々に対して日本は経済的・技術的援助をせざるを得ない立場にあるでしょう。日本は，今までも相当な援助はしてきているが，今年あたりからは，もっと多量の援助をせねばならなくなるでしょう。われわれは，国内の産業発展に力をつくすとともに，開発途上国に対して真剣に取り組むべき年になると思われます。

つぎに，学会の運営の問題について述べたいと思います。土木学会は近来，いかにして新しい分野に眼を向けるか，そして新しい考え方で運営をして行くかについて非常な努力を払っています。たとえば，海洋開発とか公害，原子力の問題とか，あるいは総合交通計画の問題とかでありますが，特に考えられることは，若い会員の要望をいかに取り入れるかが大きな問題であります。特殊の人を除いては，技術・研究は若いエネルギーに負うところが多大であって，この若い人々に親しまれる学会であらねばならぬと思うのであります。私は，ここに若い会員各位に対してお願いしたいことは，各位が気のつかれたこと，あるいは学会に対して，いかなる意見があるか，その他なんでもよいから，積極的にお申し越しいただけたら幸いだと存じていますので，よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり以上のように申し上げまして筆をおきます。会員各位のご多幸な1年でありますよう，お祈り申し上げます。

*正会員　三井共同コンサルタント（株）社長